

解説

これだけは押さえておきたい 収益力アップのためのコスト管理の考え方

村上英樹

金型・部品加工業専門コンサルティング

今回は、金型メーカーの「稼ぐ力」に着目した特集である。金型の中でも特に自動車分野の動向を見ると、部品の種類によっては市場に出回る仕事の全体量が少なく、受注が激減しているという問題が多くの金型メーカーを苦しめている。ただ、仕事の引き合いが十分にあったとしても、価格競争力の強化やコストの最適化は、金型メーカーにとって永遠のテーマである。

そこで今回、筆者は収益力アップの取組みのうち、コスト管理について考察したい。まず、読者の皆さんに考えてほしいのが、皆さんが日々製作する金型にどのくらいのコストがかかっているか。これには以下の2つの考え方がある。

- ① 積み上げ方式で集計される金型製作コスト
- ② 正味の金型製作コスト

この2つの違いを知ることが、稼ぐ力をどのように得ていくかの方針を立てるうえで、とても重

要である。詳細はこれから説明するが、たとえば、マシニングセンタ（MC）での穴あけ加工を例にすると、とにかく加工条件を上げ、最短の時間で加工していくことを目指すのが積み上げ方式の金型製作コストに向けた方針である。一方、とにかく安全な加工条件を探り当て（一般的には下げる方向）、可能な限り多くのワークを同じ段取りで連続加工していく、いわゆる多数個同時加工を行い、日当たり出来高を高めていく方針は、正味の金型製作コストに基づく方針となる。

このように、金型メーカーが稼ぐ力を向上させていくにあたり、現場の方針はこの2種類の金型製作コストをどう捉えるかに依存する。この2つのコストの違いについて、しっかり理解してもらいたい。

積み上げ方式の金型製作コストとは

ではまず、多くの金型メーカーで広く用いられている積み上げ方式の金型製作コストの方から見ていきたい。積み上げ方式の金型製作コストとは、図1に示すような金型ごとにかかる構成要素を合計することで算出される。

材料費は主に、金型構造に使用される鋼材を購入する費用である。購入品費は、部品メーカーが販売している市販部品を購入する費用である。外注費は外注業者に依頼した場合に支払う費用を言う。主な外注方法として、①金型そのものの製作

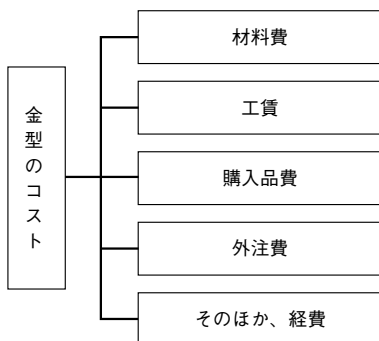


図1 金型コストの構成